

めざす姿とその表現に向けて 関 五 言七

日本語トピック

人材育成に向け始動

F A I T両面での理解が重要

セントラル（IAT）する。
C)」（大阪市住之江）工場の生産性や品質
区を開設した。

4月から始まるIT化推進などで、設備間
エンジニアが対象のや生産ライン間、工場
「ビギナーコース」は間などをつないで情報
座学と実習で構成す
る。実設備に近い常設
の模擬生産設備を用い
いる。だが、製造業は
ト技術者を育て生産自
動化に着手しても、F 分かる人材が現状では
の向上、省エネルギー AやITがわからずに少なすぎる。ITの若
困る中小企業も多い。手が設備プログラムに
同セミナーはIT技術
者にモノづくりへの関
心を高めてもらい、I 上げでできる」とセミナ
ーで教壇に立つ。2月
にテスト的に行つたセ

中小口ボット関連企て制御の基礎を学び、今、工場自動化(FA機器)とIT機器

業などが参加するシン・トラブル対応なども経験。電気やセンサー、モーター、制御プログ

ラムの基礎知識を学び、設備の図面が読めない問題に直面する。海外への工場流出などが

不足や、高齢化といつても、クな考え方は近いが、プログラミング言語が違う、プログラマ作業

oBO、大阪市住之江び、設備の図面が読遠因で学ぶ人が減り、も大きく異なる。FA

区)。ITとモノづくり、プログラマブルコインターネットやゲーでは電気知識が重要と

りに精通した人材育成ントローラー(PL)ム業界などにプログラマになる。iRooBO理

を狙い、「インダストリC」の簡単なフローリアル・オートメーションが書けるよう

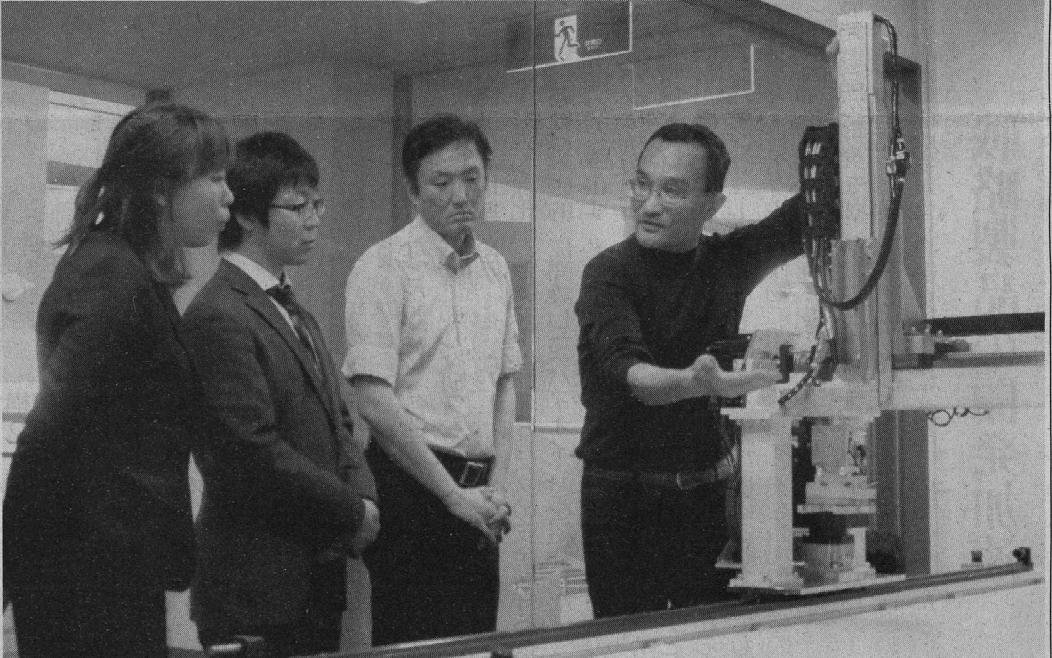
リアル・オートメーションが書けるよう

ヨン・テクノロジー・になるところまで講義

流行に乗ってロボット

ロボットやI.O.T（モノのインターネット）に精通した人材育成に向け、多様な取り組みが関西で動きだす。在阪ロボット開発シンクタンクがI.Tとモノづくりに通じた技術者育成をスタート。大阪府池田市などの小中学校では人型ロボットを用いたプログラミング教育が始まり、大阪工業大学はロボティクス＆デザイン工学部を設ける。労働人口が減少する時代、ロボット・I.O.T化の重要性が増す中、扱える人材育成が日本の将来を左右する。

日本の産業界を底上げ



RooBOはIATCでITとモノづくりに精通した技術者を育成する

好評。20代プログラマー機能の強化を進め
ーは「両方のことが考
えられれば、全体最適
にもつながる」と、視
野が広がった様子で親
和性も高そうだ。
溶接口ボット首位で
システムインテグレー
タ一機能の強化を進め
るDAイヘンの金子健太
郎執行役員F Aロボッ
ト事業部長は、「人材
不足は切実な課題。経
験も必要で、しっかりと
した育成強化が不可
欠だ」と指摘する。